



**スーパーGTの  
平川亮選手がテスト**

1994年生まれで今年21歳となるレーシングドライバーの平川亮選手。2007年、13歳の時にレーシングカートでキャリアをスタートさせた彼は、すでにスーパーGTとスーパーフォーミュラという日本のトップカテゴリーに到達し、先頭争いを展開。本企画ではRC F チューンのテストドライバーを務める。



そしてレーシングチームであるトムスが徹底的にチューンするとなれば、その評価は必然的にサーキットのラップタイムによって計られると考えている。本稿ではチューニングを進めていく過程で、都度、富士スピードウェイにおけるタイムアタックを予定しており、熟成の度合いをチェックしていく予定である。

今回のレポートでタイムアタックを担当するのはレーシングドライバーの平川亮選手。今年のスーパーGTにトムス・チームから参戦し、開幕戦に勝利している彼はこの仕事に最適な人物といえる。またコントロールタイヤとしてブリヂストンのポテンザRE-71Rを使用していくことも決定している。

RC Fレポートの第1回は、すでにトムスの手が入りはじめてはいるが、性能的にはまだノーマル状態に



**アタックタイヤはブリヂストン  
POTENZA RE-71Rに決定!**

ポテンザのリアルスポーツタイヤとして伝説的なRE71。その栄光の名を引き継いだRE71Rは、コーナリングスピードを確実に向上させ、ラップタイムを詰めることができる最新のポテンザだ。本企画のレポートでは、RE71Rをコントロールタイヤに指定している。



あるテスト車両のRC Fを富士で走らせてラップタイムを計測することからはじめていく。

RC FはレクサスRCの最上級スポーツバージョンであり、Fのアルファベットはよく知られているように、その開発のステージとしても利用されている富士スピードウェイの頭文字をとったもの。477psを發揮する5.0V8エンジンを搭載し、8速のギヤボックスと組み合わせた2+2シフト、FRレイアウトのスポーツカーである。

BMW M4のライバルとして知られるこのクルマをチューニングしていく場合、全球におけるチューニングは必要ない。パワートレインのレベルは完成形に近く、またブレーキに関しては十分に備わっている。容量的には十分といえる。そこで今回のレポートではエアロとダンパー&スプリングの足まわり、そしてボディ補強とタイヤ・ホイール等を中心に行っていくことになる。だがエアロによ

ってダウンフォースを増やし、ボディ補強と足まわりのセッティングでメカニカルグリップを高めラップタイムを稼ぐ考え方はまさにレーシングチームが得意とする部分だ。

今回、平川選手のタイムアタックをビットで見守るのは、スーパーGTでトムス・チームの監督を務める関谷正徳さんだ。ロードモデルのレクサスRC Fにはどのような印象を持っているのだろうか?

「サーキットを連続周回できるといふことは、まずブレーキがしっかりと止まるからだよね。スポーツカーでここまでブレーキ性能が高いのはポルシェとRC Fだけだよ」

平川選手は今年21歳。普通車よりもレーシングカーのキャリアの方がはるかに長いという彼は謙虚に「サスペンションが大きくストロークするクルマの動きが最近ようやくわかってきたところ」だと言った。だがもちろんサーキットではいきなり安定してトップレベルのタイムを記録することができる。

**“今月のTOM'S装着パーツ”**



現状のレポート車はほぼノーマル状態。現在装着されているトムス製品は外装のイメージを引き締めるカーボンシートとTOM'Sエンブレム。エンジン系では電子スロットルコントローラー(今回はノーマル状態でアタック)。室内ではカーボン・ステアリング、ブッシュスタートボタン、そしてフロアマットを変更。

今回のタイムアタックは混走状態の中で行われたが、平川選手は2分1秒459を記録したラップを刻み、2分1秒459を記録したのである。

「タイヤのグリップはとっても安定しているんですが、コース後半のタイトなセクションではアンダーオーバーが頻りに出てしまい、姿勢を安定させるのに苦労しました。やっぱりノーマル状態なのでサスペンションのストロークが大きくて、ピッチングが出てしまうと、そのままタイヤのグリップに影響してしまっているんだと思います」と的確なコメントをくれた平川選手。まずは富士2分切りがRC Fレポートの現実的な目標となったのである。



# Lexus RC F Tuned by TOM'S

Vol.1

## 始動! RC Fチューン。

スポーツモデルのポテンシャルが飛躍的に高まっている昨今。コンプリートチューンの開発も難しさを増すが、レクサスの急先鋒であるRC Fを名門トムスが仕立てるようになった。その過程を追い、熟成度をチェックする。

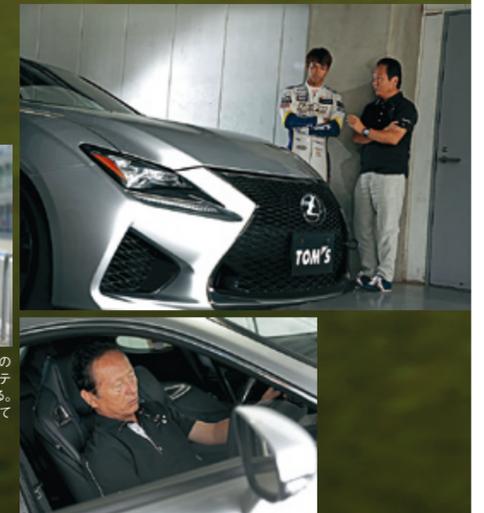
REPORT ● 吉田拓生 (Takao Yoshida)  
PHOTO ● 市 健治 (Kenji Ichi)



**関谷正徳氏が直々チェック**



関谷正徳監督がRC Fの走りをチェック。日本人初のル・マン総合優勝ドライバーは、ロードカーのセッティングにもはつきりとした理想形を描くことができる。父と子ほどに歳の離れた関谷監督は平川選手にとってよきアドバイザーであり相談相手でもあるという。



果たしたレクサスのスポーツクーペ、RC Fである。トヨタ系トップチューナーはどのような手法でコンプリートカーを仕上げているのだろうか。今回の連載では、その一部始終をレポートしていく。

トムスのチューニングパーツはトヨタが市販している多くの車種をカバーしているが、コンプリートカーとして仕上げる車種は限られている。とはいえ今回のRC Fのようなトップレベルのスポーツカーと対峙した場合、徹底的にセッティングを詰めた状態。まで仕上げて、カスタマーに提供したいと思うのはチューナーとして当然のことだろう。